

第47回 北海道土を考える会を開催しました。

2024年7月31日



田村前会長(左)、北川新会長(右)

北海道土を考える会は、7月10日に、北海道上富良野町土の館にて総会・研修会を開催しました。総会では様々な事情から7年に渡って会長を務められた田村さんが退任され、中富良野町の北川さんが会長となりました。北川新会長からは「田村会長からしっかり引き継ぎながら、若手の会員を巻き込んで、さらに活発に活動していきたい」との挨拶と共に、新たな役員が紹介されました。



谷教授(左)、前島先生(右)

総会後の研修会は【**土壌断面から空気と水の動きを観る**】がテーマ。未施工と、サブソイラ・プラソイラ・ハーフソイラの3種類を施工した上に3種類の緑肥を栽培した合計12種類の断面で根の伸長を観察して水と空気の動きを確認しました。ホワイト農場に開けられた深さ1.5m、幅12×奥行2mの3つ穴の断面を前に、現地土壌の来歴について、農研機構 農業環境研究部門の前島先生から詳細な説明をいただいてから、帯広畜産大学の谷教授に今回のテーマに沿った解説をいただきました。「作業機を選ぶうえで、土壌の特性を理解する大切さが見てとれたと思います。今後も様々な方法で検証が必要ですね。」と締めくくり、参加者の方々は断面を見ながら根張り具合などを熱心に確認していました。



雪印種苗㈱ 和田美由紀氏

常設テントでの情報提供①は、雪印種苗㈱の和田美由紀氏が『緑肥利用について』と題して、土作り、カバークロップ 景観美化・養蜂資源、バンカープランツの4つで区分した緑肥の説明をいただき、最後に「求める効果に対して、お手持ちの機械に合わせて緑肥を選ぶのがポイント」と話されました。情報提供②は、元農水官僚でNEXTファームエディ代表の佐藤祐一氏が「25年ぶりの農業基本法改正が目指すところに、農業現場はどう向き合うのか」と題し、改正のポイントとそれに伴う「大胆予測」をいただきました。



NEXTファームエディ 佐藤祐一氏

その後のスガノ農機新製品実演会では、6月に発売となった本体制御直装レーザーレベラーと、農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター「戦略的スマート農業技術の開発・改良」の支援を受けて開発中のランドハローが紹介され、情報交換会に。研修会のネタを肴に、バーベキューから2次会へ交流の輪は止まることを知らずに広がっていったようです。

また、今回の研修会では、全国6地区の土を考える会会長が集まっての会議が行われ、多くの会員から要望されている全国化についても検討されました。全国土を考える会の解散以降、各地区での活動が主体となっていました。それを横に繋げる、具体的な内容については、改めてご報告させていただきます。

